

(参考資料)

九十九里町の地域・公共交通の現状 に関する基礎資料



《要 点》

地域の概況

(人口等の状況について)

- 本町では、**人口減少、少子・高齢化**が進んでいます。
- 人口は、海岸沿いや町の中心に集まっていますが、**町域全体に拡がっており、一人暮らしの高齢者も、広く分布**しています。(鉄道、路線バスのような手段で全てカバーするのは難しい状況)
- 人口減少、少子・高齢化は**今後も進む見通し**であり、**外出手段の確保は、ますます重要**になると考えられます(人口減少が進むなか、確保していくこととなります。)

(施設の立地状況について)

- 本町のスーパー、病院等の主な施設は、おおむね町の中心付近に立地しています。**町の周辺部**からこれらの施設を利用するには、歩いて行くには遠く、**何らかの交通機関が必要**となります。
- また、町内の施設数は限られており、**必要に応じて隣接市等の施設へ出かける必要**があります。
- 一部、**バス停が近くにないスーパー、病院**もあります。

(町民の外出等の状況について)

- 通勤・通学では、町内のほか、東金市等へ出かける人が多くなっており、**クルマ(自家用車等)を利用する人が突出して多い**のが現状です。
- 当地域では、**買い物にも、ほとんどの人がクルマ**で出かけています。

(その他、町民等の状況について)

- 町民の**定住意向は高い**状況です。移転したい人の中では、**交通や買い物が不便**なことが理由の上位となっています。
- 町民の**自動車や運転免許の保有率は高い**状況です。
- クルマ中心の外出スタイル**となることで、**地球環境面、健康面、まちなかの賑わい**等の面での悪影響が危惧されます。

- 本町への**観光客**も、多くの方が**クルマ**で来訪しています。（**宿泊客が減少**）

（本町のまちづくりの上位計画）

- まちづくりの最上位計画である「**総合計画**」では、「公共交通の利用促進」、「交通手段の充実」を主な取り組みの一つとしています。

公共交通の現状

（公共交通のネットワーク）

- 本町には駅がなく、**複数の路線バスが町内を運行し、隣接市の駅との間をつないでいます。**
- 高速バスが、東京、千葉方面との間をつないでいます。**
- タクシーが、これらを補完する役割を担っています。**

（路線バス・高速バスの状況）

- 路線バスは、本町の人口の多くをカバーしています。ただし、路線バス等で全域をカバーするには限界があり、公共交通不便地区が残っています。**
- バスの利用客数は、決して多くなく、以前から減少傾向であり、コロナ禍で、さらに落ち込みました。**

（タクシーの状況）

- 町内の**タクシー営業所は1社あり、車両台数は4台**です。タクシーの利用客も、**コロナ禍で落ち込みました。**
- 公共交通が存在しない地域の解消に向け、「**タクシー利用助成**」の実証実験に取り組んでいます。

（バス、タクシーの事業者の状況）

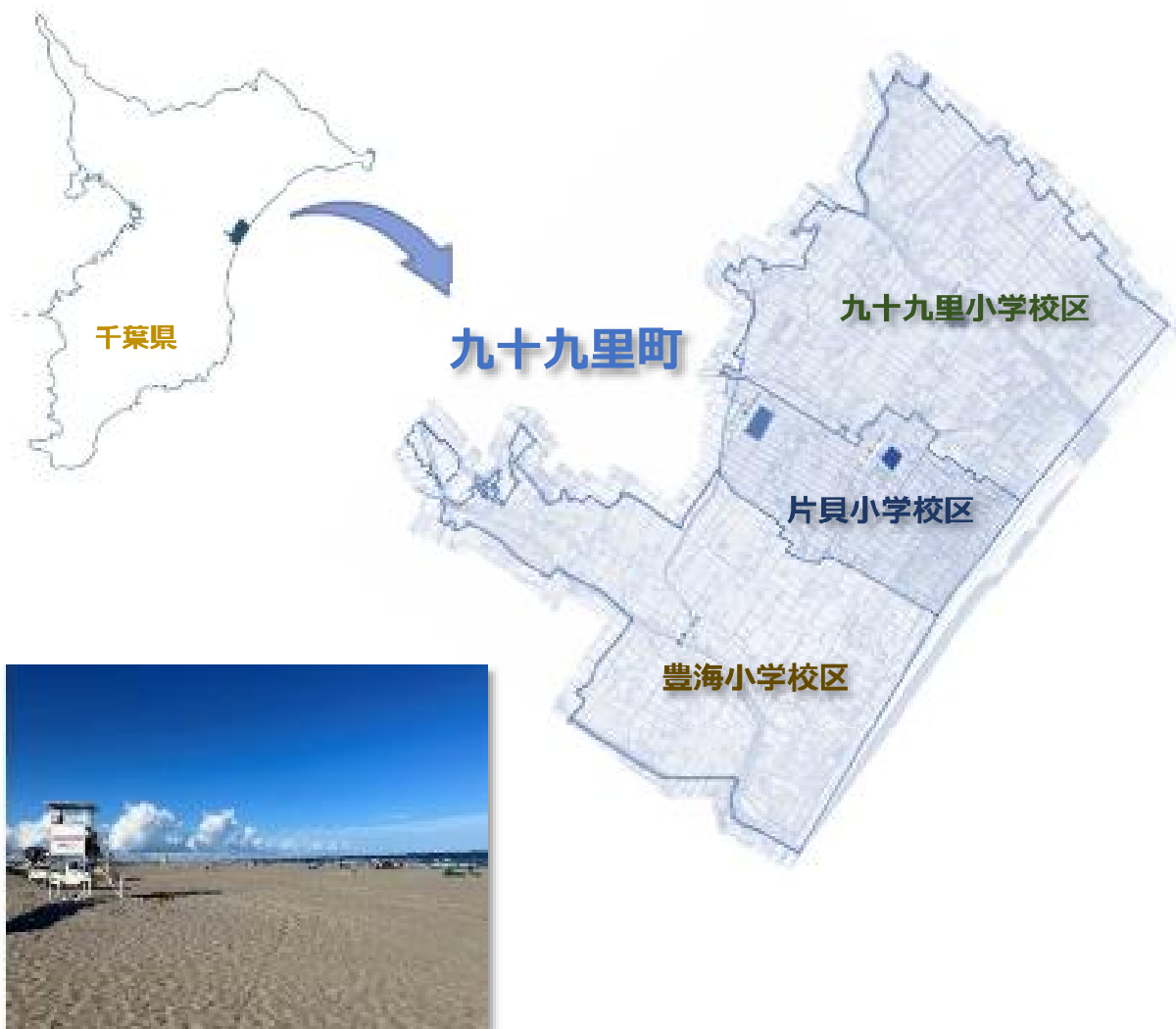
- 利用客の減少に加え、**乗務員の不足、高齢化が全国的に深刻な問題**となっており、バス、タクシーの事業者は、**きわめて厳しい運営状況**となっています。

1. 地域の概況

九十九里町の地勢、人口、施設立地等に関する地域の状況は、以下のとおりです。(以下は、基礎調査期間に入手可能な情報をもとに整理したものです。)

1-1. 位置・地勢

- 九十九里町は千葉県の東部、九十九里浜のほぼ中央に位置しており、北は山武市、西は東金市、南は大網白里市に接し、東は九十九里浜で太平洋に面しています。
- 東京都心から60km圏にあり、千葉市等の都市部や成田空港の至近に位置しています。
- 約24km²の面積のほとんどは平坦な海岸平野で、町域には約1万5千人が暮らしています。



1-2. 人口等の状況

(1) 人口の推移

- 本町の人口は 2000 年頃を境に減少に転じており、現在の総人口は約 1 万 5 千人となっています。
- また、少子・高齢化が急速に進んでおり、年少人口の減少、老年人口の増加が顕著です。高齢化率は約 40%を超えています。高齢化が進むことにより、外出手段の確保が今後ますます重要になるものと考えられます。



(2) 世帯数の推移

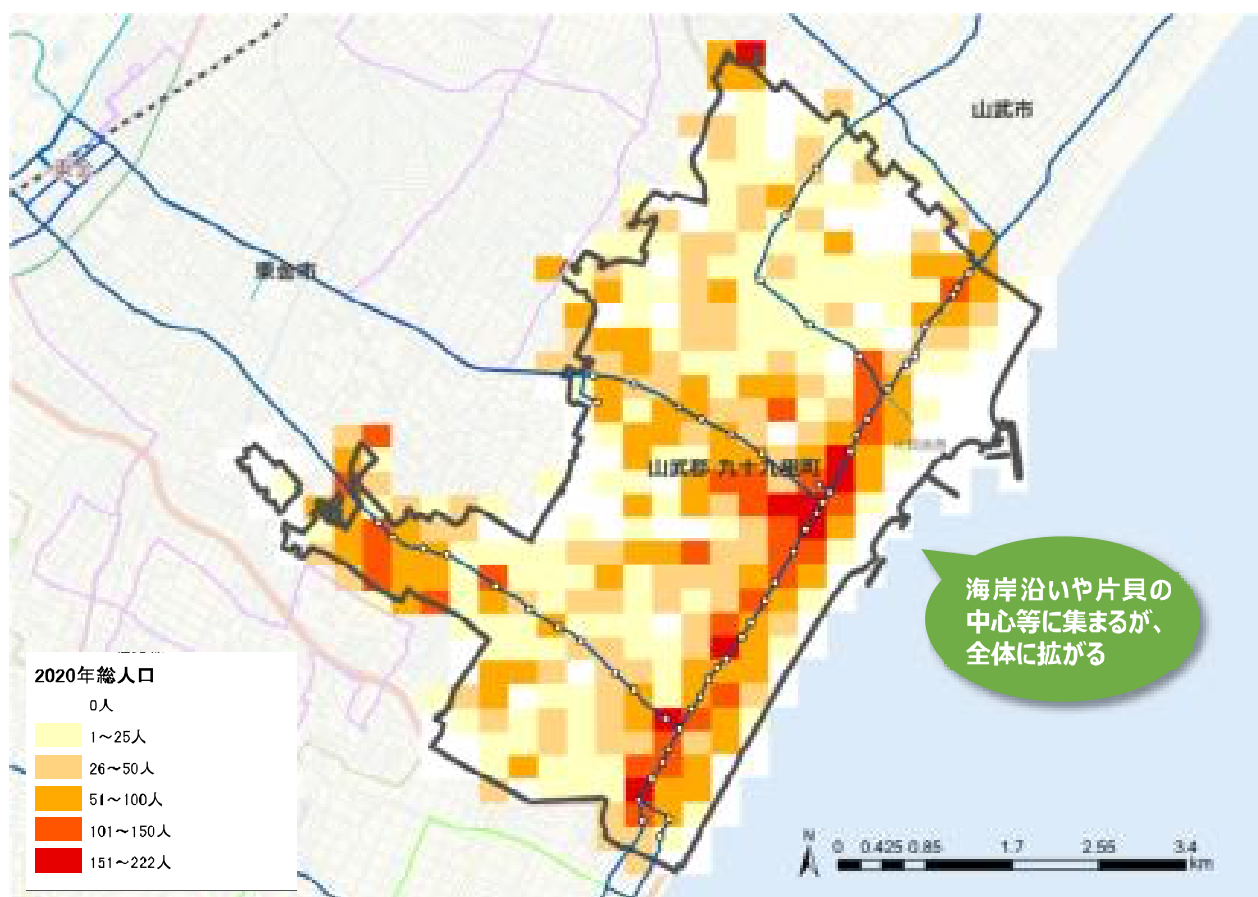
- 世帯数も減少していますがその傾向は人口より緩やかで、世帯当たりの人数が減少しています。
- 世帯の構成が変化することで、家族や地域等での助け合い等に影響する可能性があります。



(3) 人口の分布状況

1) 人口の分布

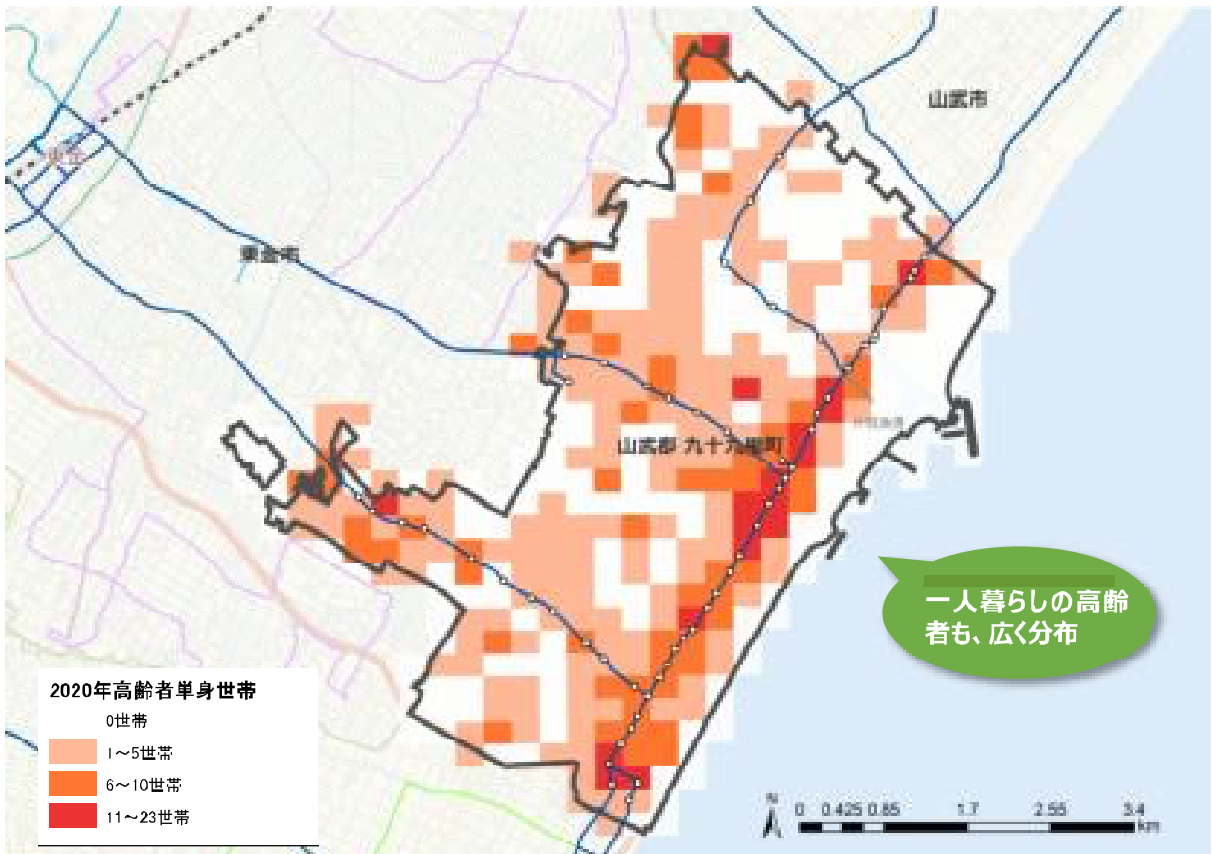
- 本町の人口は、海岸沿いの東側や、町役場や九十九里病院などが立地する片貝地域の中心等集まっています。
- ただし、西側、北側の地域にも人口が分布しており、居住地が町域全体に広がっている状況です。



国土数値情報（国勢調査 R2）より

2) 一人暮らしの高齢者の分布

- 総人口の分布状況と同様に、一人暮らしの高齢者の人口も、町の東側に集まる一方、町域に広く分布している状況です。



国土数値情報（国勢調査 R2）より

(4) 将来人口等

1) 将来人口の見通し

- 将来推計によると、現在の傾向が続いた場合、本町の人口は今後も減少し、将来、総人口が1万人を下まわる見通しです。
- 少子・高齢化も進み、65歳以上の高齢化率は5割を超えるものと見込まれています。また3人に1人が75歳以上となる見通しです。



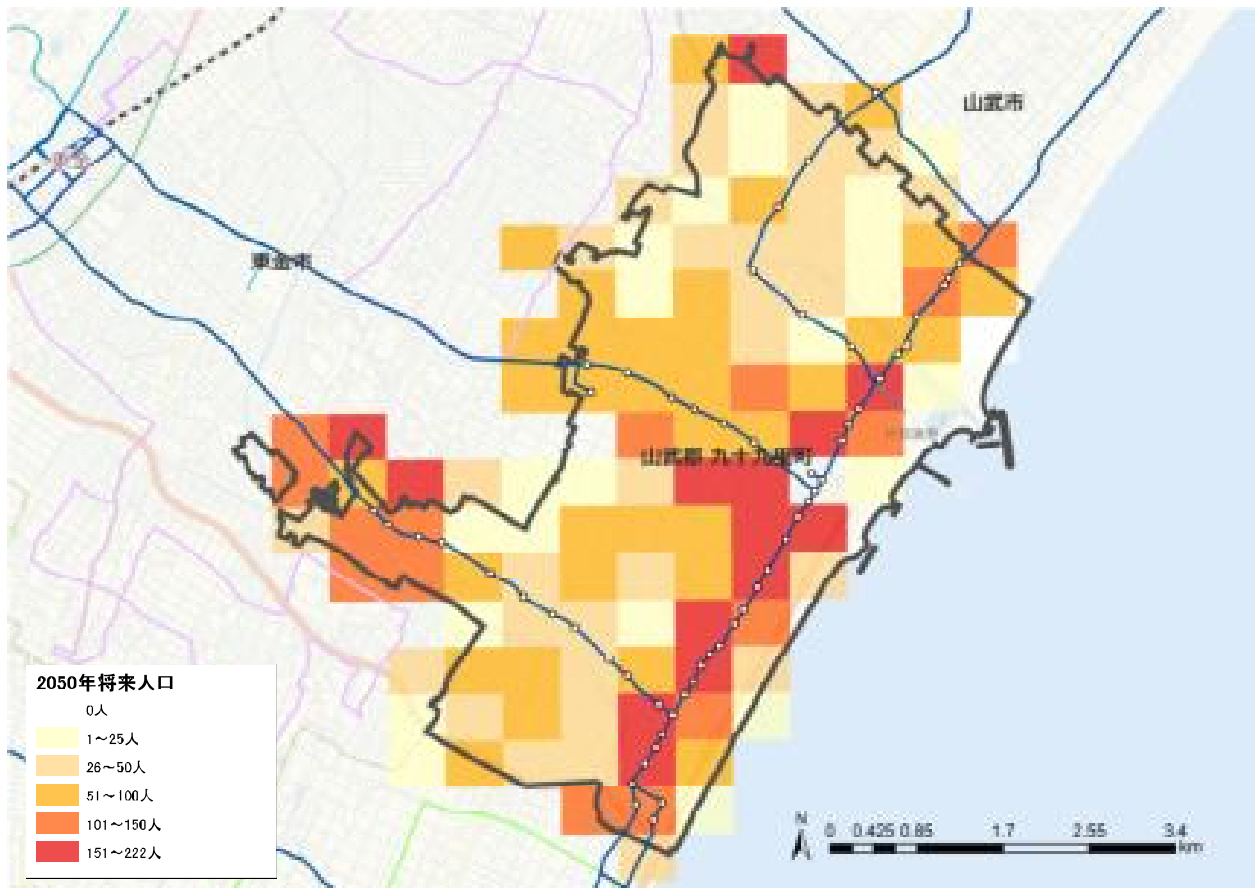
65歳以上の高齢者が半数以上に

3人に1人が75歳以上に

国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所推計 より

2) 将来の人口分布 (2050年)

- 本町の将来の人口は、全体として減少する見込みです。将来も現在同様、町の東側の地域に人口が集まる一方、居住地が広く薄く分布する状況となる見込みです。



国立社会保障・人口問題研究所推計 より

1-3. 主な施設の立地状況

(1) 主な公共施設

- 本町の町役場、中央公民館、野球場は、町の中心エリア（片貝）に集まって立地しています。
- 海岸沿いには複数の町営駐車場、いわし資料館（海の駅九十九里内）があります。
- 真亀川総合公園は南西部（豊海小学校区内）に、ちどりの里（介護予防拠点施設）は北東部（九十九里小学校区内）に立地しています。



国土数値情報に情報を追加して作成

(2) 主な店舗等

- 町内にはスーパー、ドラッグストアが複数立地しており、多くの町民が利用しています。
- ただし町内の店舗数は限られており、隣接する山武市や、東金市の大型店へも多くの町民が日常的な買い物に出かけています。
- これらの店舗には、いずれも広い駐車場があります。また大半の店舗の近傍にはバス停がありますが、ランドローム（本町内）の近傍にバス停はありません。



ランドロームの近傍に、バス路線はない

いずれの店舗も、広い駐車場がある

国土数値情報に情報を追加して作成

(3) 主な医療施設

- 町内の総合病院として九十九里病院があり、その他に複数の診療所が立地しています。(近傍にバス路線がありますが、バス停はやや離れています。)
- 隣接する東金市の本町近傍に浅井病院があり、本町の町民も利用しています。このほか東千葉メディカルセンター(東金市)、さんむ医療センター(山武市)等が、本町から離れた場所に立地しています。



国土数値情報に情報を追加して作成

(4) 学校

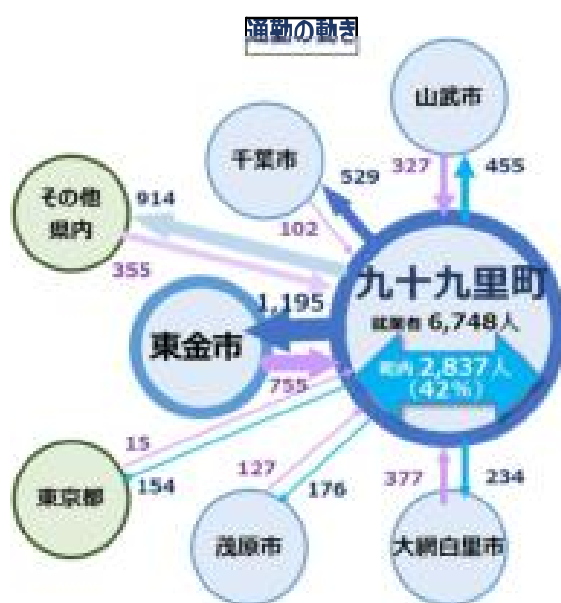
- 本町には高校、中学校が1校ずつあり片貝の西寄り（市町境付近）に隣接して立地しています。（時間帯によって、路線バスが乗り入れています。）
- 小学校は、町内に3校あります。



1-4. 町民の外出等の状況

(1) 通勤・通学

- 通勤をする町民の約 4 割が、本町内へ通っています。町外では東金市へ通う人が特に多くなっています。
- 通学（15 歳以上）では、立地する高校が 1 校であるため町内へ通う人は 2 割弱であり、県内の他市町の学校に通う人が多くなっています。
- なお、町外から本町への通勤・通学では、東金市から通う人が比較的多くなっています。



町内に通う人が特に多い

東金市との行き来が多い



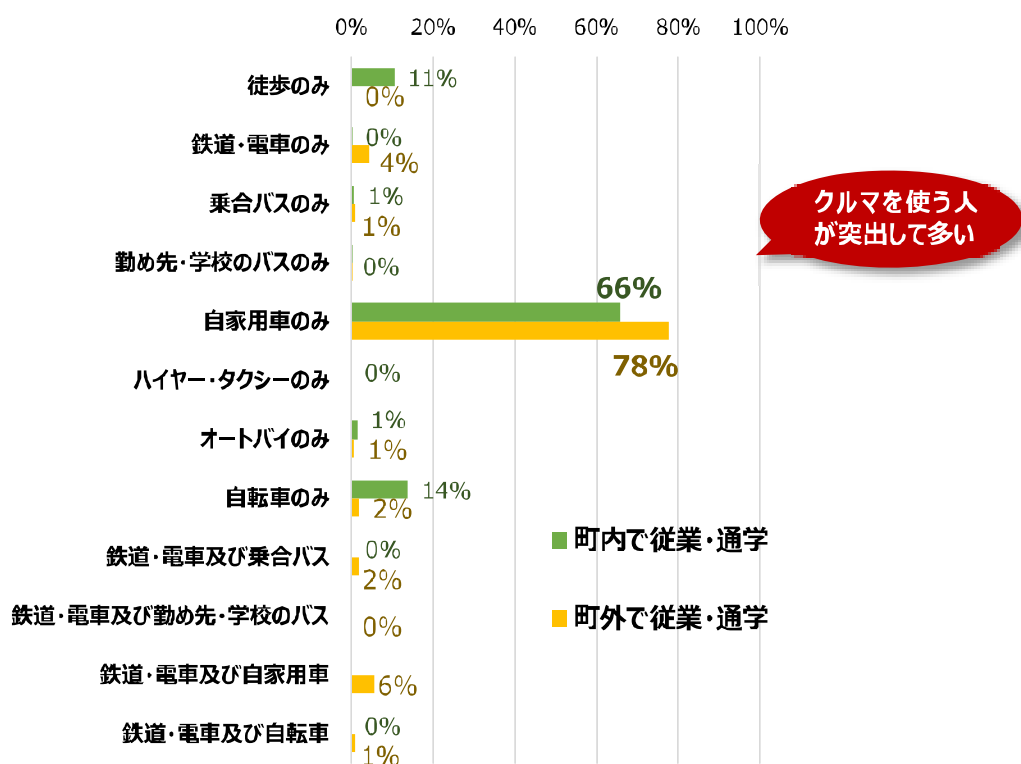
通学は、県内の他市町へ

国勢調査 R2 より

・通勤・通学の交通手段

- 町民の通勤・通学の交通手段は、町内・町外ともクルマ（自家用車）が突出して多い状況です。
- 町内の通勤・通学では、徒歩、自転車、通う人がそれぞれ1割程度見られます。町外への通勤・通学では、鉄道で通う人がやや若干見られます。
- 町内、町外の何れも、バスを利用して通っている町民はきわめて少ないのが現状です。

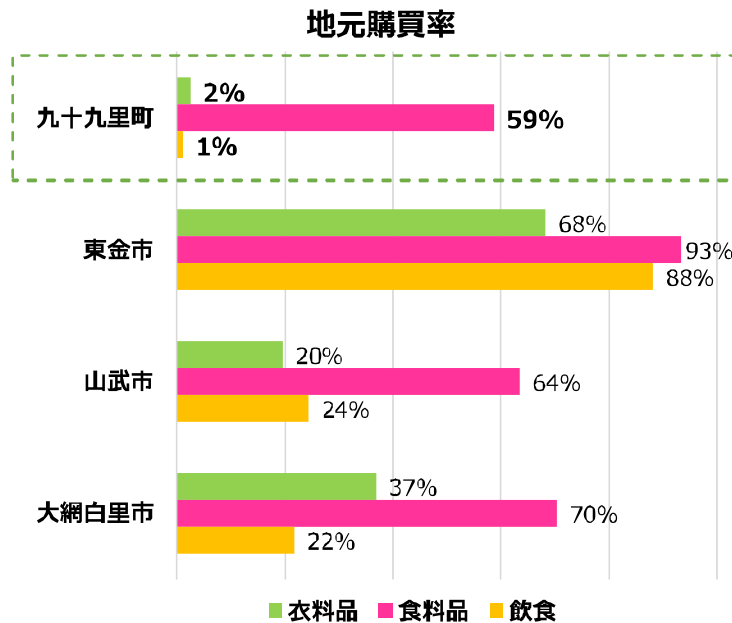
通勤・通学の利用交通手段（九十九里町民）



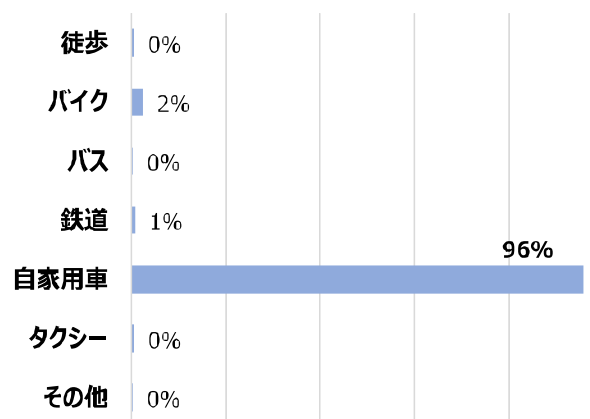
国勢調査 R2 より

(2) 買い物の状況

- 町民の買い物先は、食料品は町内で買い物する人が半数以上となっています。町内の店舗数が限られているため、衣料品の買い物や飲食では町外へ出かける町民が大半です。
- 山武地域に住む人の大半が、買い物に出かける際、クルマ（自家用車）を使っている状況です。



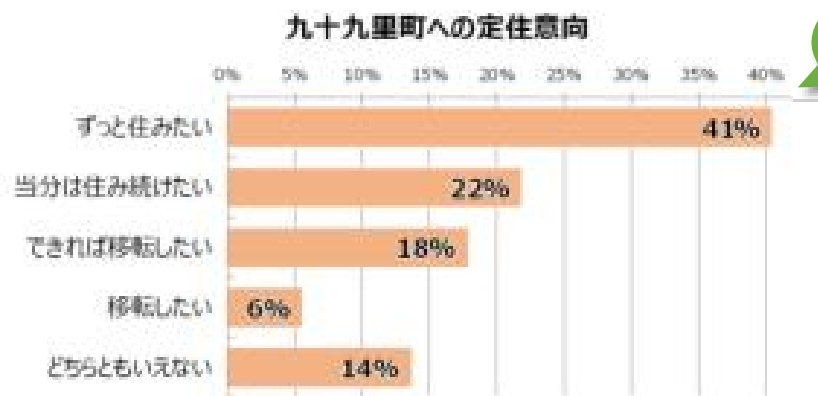
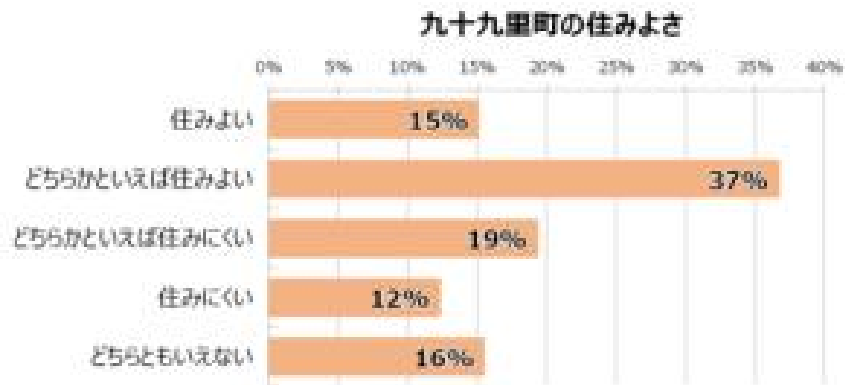
店舗への交通手段（山武ブロック在住者）



消費者購買動向調査（H30）千葉県より

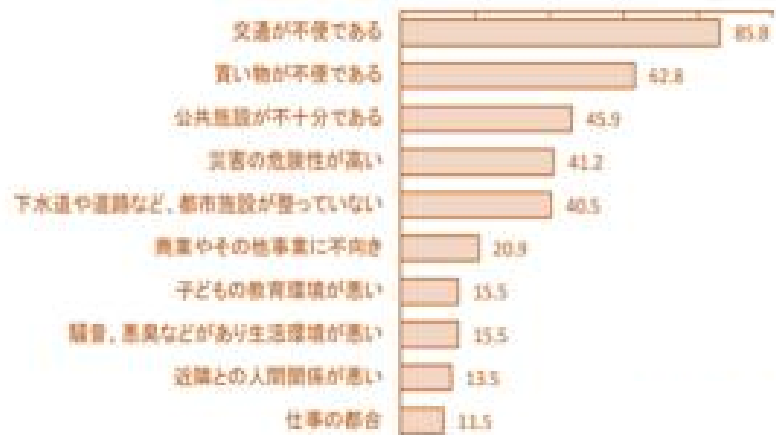
1-5. 町民の定住意向等

- 町がすみよと感じる人が比較的多く、町民の定住意向は高い状況です。
- 移転したいという人の中では、交通が不便との理由が最も多くなっています。



町民の定住意向は高い

(移転したい人の理由：上位)



交通が不便との意識

総合計画の町民アンケートより

1-6. 自動車利用の状況

(1) 自動車利用の状況

・自動車の保有台数

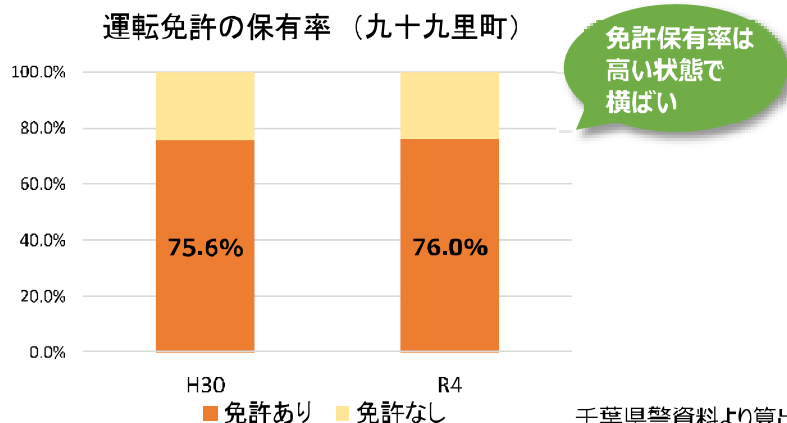
- 人口は減少していますが、自動車の台数は横ばいの状況にあり、世帯当たりの台数、一人当たりの台数は増加している状況です。



千葉県統計年鑑より算出
(軽自動車を含む自動車の合計台数)

・運転免許証の保有状況

- 人口に占める運転免許証保有者の割合は横ばいであり、8割近くの町民が免許を持っています。

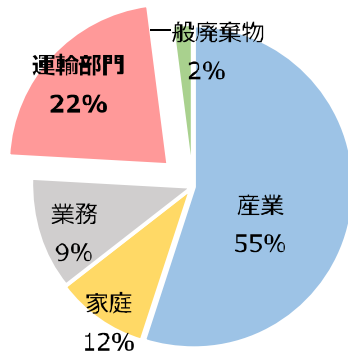


千葉県警資料より算出
(16歳以上の人口に占める割合)

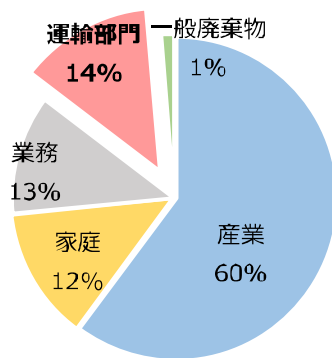
(2) 地球環境面

- 本町のCO₂排出量のうち2割を運輸部門が占めています。運輸部門の排出量のほとんどは、クルマ（自動車）によるものです。（運輸部門による排出量の占める割合は、千葉県全体よりも高い状況です。）

部門別CO₂排出量推計（九十九里町）



部門別CO₂排出量推計（千葉県）

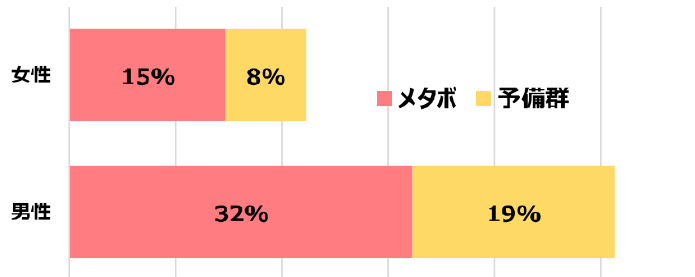


環境省 2020 年度都道府県別推計データより

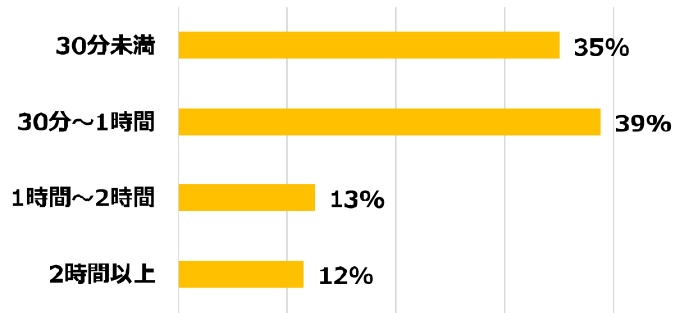
(3) 健康面

● 町民のうちメタボリックシンドローム該当者の割合は特に男性で多い傾向にあります。日常的に歩く時間の少ない町民が多く、ドアツードアであるクルマ中心の行動スタイルが影響している可能性もあります。

メタボリックシンドローム及び予備群（九十九里町）



1日の歩行時間（九十九里町）



九十九里町健康増進計画より

(4) まちなかの賑わい等の状況

- 本町では、ドアツードアの移動となるクルマ中心の行動スタイルが定着しており、町の中心に位置する片貝付近の道路もクルマの通行があるのに対し、歩く人はほとんど見られません。かつての九十九里鐵道の上総片貝駅はバス停になり、線路跡地は「きどうみち」として整備されています。



1-7. 観光の状況

(1) 主な観光資源

- 九十九里浜には複数の海水浴場があり、付近に「海の駅九十九里」、「サンライズ九十九里」等の施設もあり、レジャー、観光で多くの人々が来訪しています。

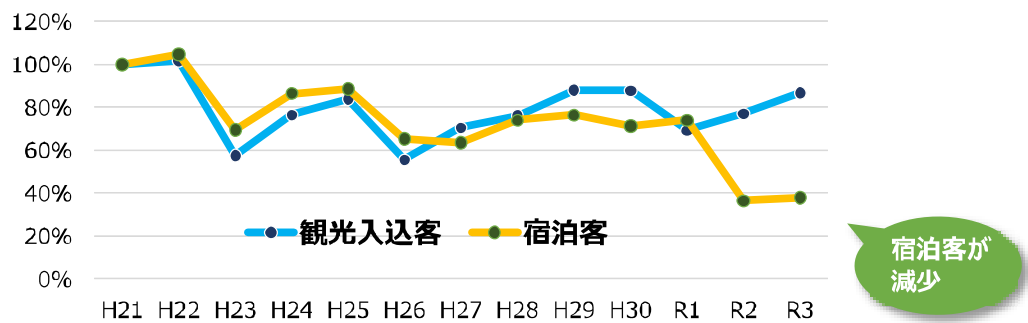


国土数値情報に情報を追加して作成

(2) 観光入込状況

- 本町の観光入込客数は変動が大きく、近年は徐々に増加していましたが、コロナ禍での落ち込みがありました。観光客のうち日帰り客がほとんどで。宿泊客は減少しています。
- なお、レジャー・観光での来訪客の多くは、クルマで来訪している状況です。

観光入込客数の推移（九十九里町）



千葉県観光入込調査 より



1-8. まちづくりの上位計画

- 本町のまちづくりの最上位計画である「第5次九十九里町総合計画」では、“快適に暮らせる基盤づくり”の施策の一つとして「公共交通の充実」を掲げており、「公共交通の利用促進」、「交通手段の充実」を主な取り組みとしています。

第3章 安全・安心に快適に暮らすまちづくり



(主な取組)

1 公共交通の利用促進

町民の意識の変化を促しながら、公共交通の利用促進を図る

2 交通手段の充実

本町にあった交通弱者対策に取り組む

2. 公共交通の概要

2-1. 公共交通ネットワーク

- 本町に鉄道駅はなく、路線バスが本町と東金駅、成東駅との間をつないでいます。
- 路線バスを、複数の事業者が運行しています。九十九里鐵道（片貝線・豊海線）は、本町と東金市方面との間を、ちばフラワーバス（海岸線）は、本町と山武市方面との間を運行しています。
- また、高速バスは、サンライズ九十九里経由白子中里行き（小湊鐵道・ちばフラワーバス）、九十九里ライナー（九十九里鐵道）が、本町と東京駅、千葉駅との間をつないでいます。
- バス等の補完として、タクシーが運行しています。



2-2. 路線バス・高速バス

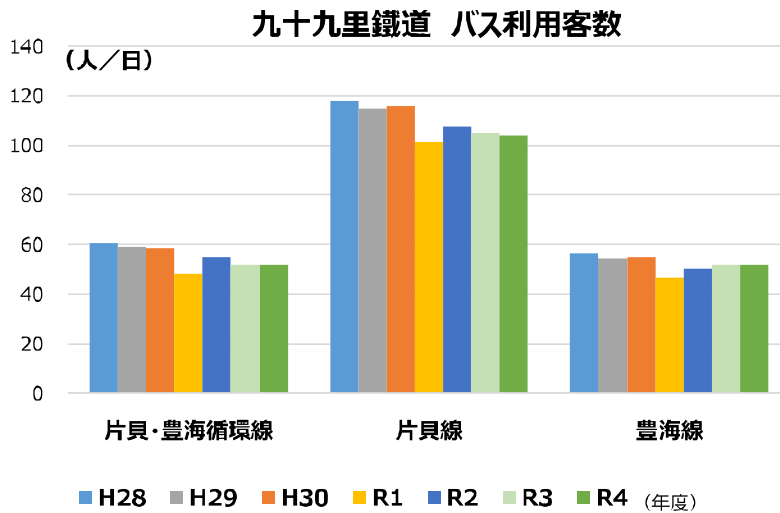
(1) バス等の利用圏域

- 本町には、複数の路線バス、高速バスが運行しています。
- 町域に広く薄く広がっている居住地を、路線バスのような公共交通でカバーするには限界があり、バス停の利用圏域以外にも人口が分布している状況です。
- ただしバス路線は、人口の集まる地区を概ね通っており、本町全体の人口の7割以上をカバーしています。



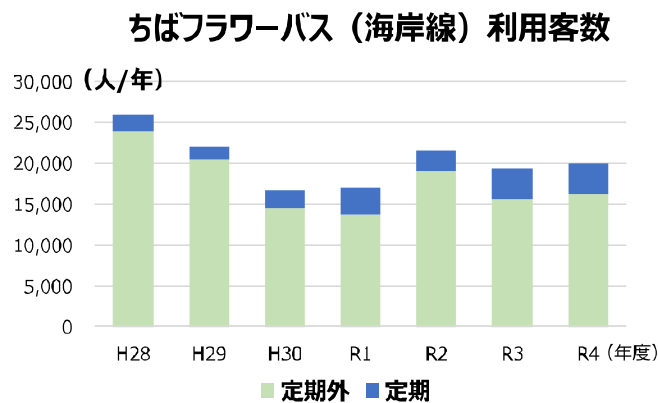
(2) 路線バス・高速バスの利用状況

●本町を運行する路線バス、高速バスの利用客数は、以前から減少傾向にありましたが、さらにコロナ禍で落ち込んでいます。特に高速バスは大きく落ち込みましたが、その後、回復しています。一方、路線バスは、コロナ禍前と比べても減少している状況です。

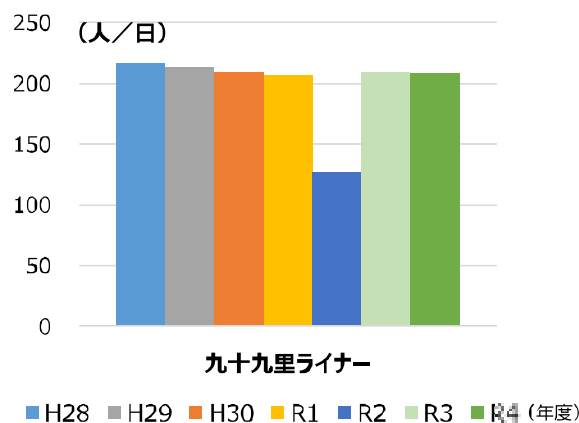


バスの利用客は、以前から減少傾向

コロナ禍で、さらに落ち込み



九十九里ライナー 利用客数

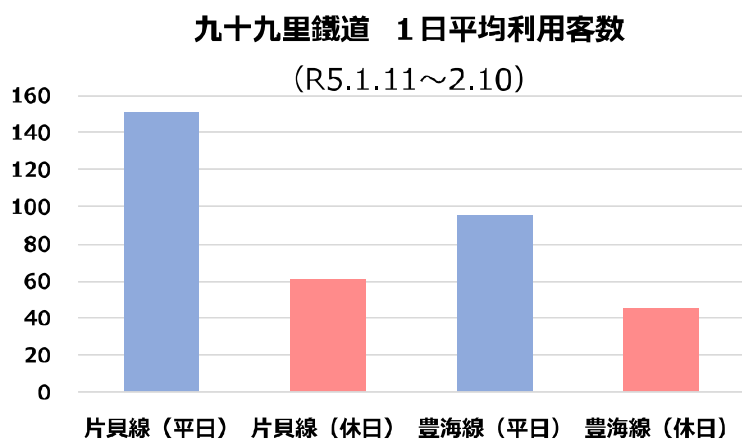


(バス事業者資料より)

(3) 路線バス・高速バスの利用状況（詳細）

・九十九里鐵道（片貝線・豊海線、九十九里ライナー）

- 九十九里鐵道片貝線・豊海線のいずれも、平日と比べ、学校や医療機関等が休みとなる休日の利用客数が少ない傾向があります。
- 九十九里鐵道のバス定期券購入者は、大半が「東金駅」との間の区間を利用しています。



参考：九十九里鐵道のバス定期券の購入実績（九十九里町の路線：2023年4月）

* 町外を含む

・購入数 34 人

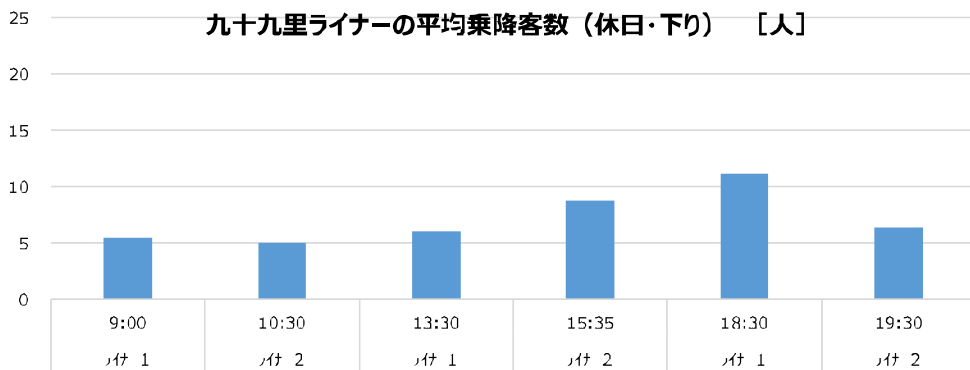
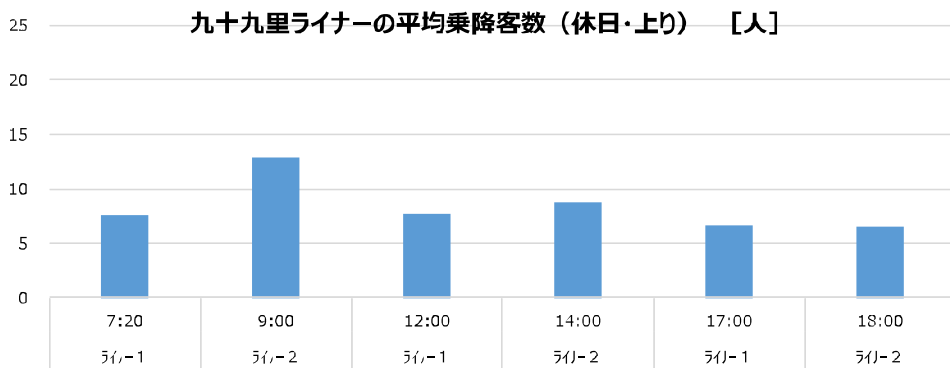
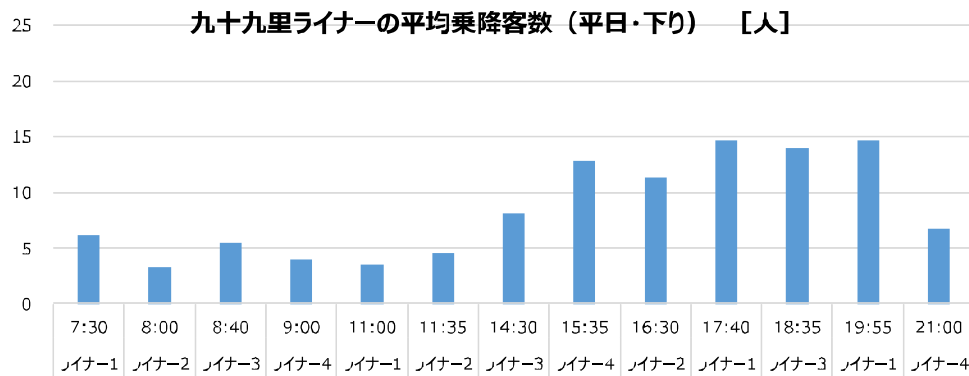
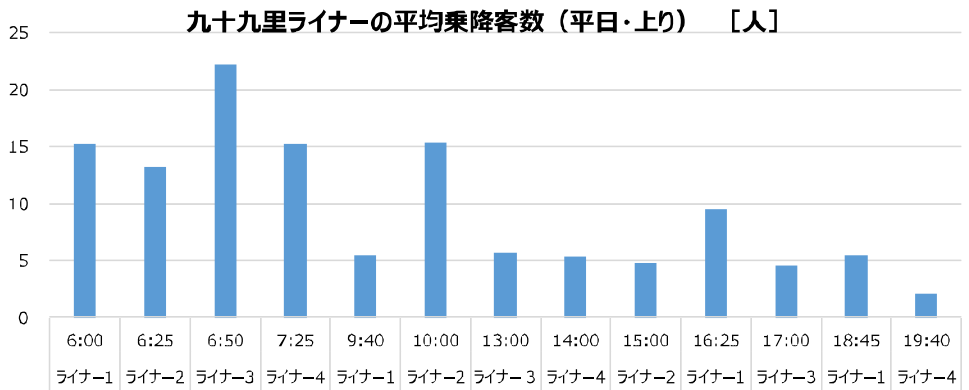
うち、定期券区間

町内から遠い側のバス停：東金駅 29 人、千葉駅 3 人

町内側のバス停：九十九里高校 4 人、九十九里学園 3 人、九十九里町役場 3 人
(その他は 2 人以下)

(バス事業者資料より)

- 九十九里ライナーの利用客数は、休日よりも平日の方が多くなっています。
- 平日・休日ともに上りでは朝の時間帯、下りでは夕方時間帯で乗降客数が多くなっています。



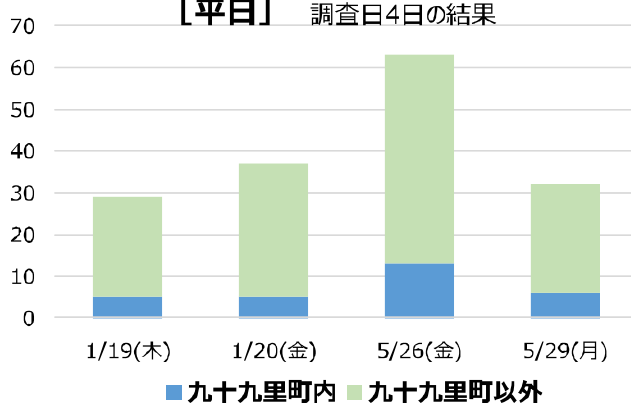
R5年2月の実績
(バス事業者資料より)

・ちばフラワーバス（海岸線）

- ちばフラワーバス海岸線については、路線全体の乗降客数のうち、九十九里町内のバス停の乗降客は少数であり、山武市での乗降客数が多くを占めています。
- ただし休日においては、九十九里町内での乗降客数が増える傾向があります。

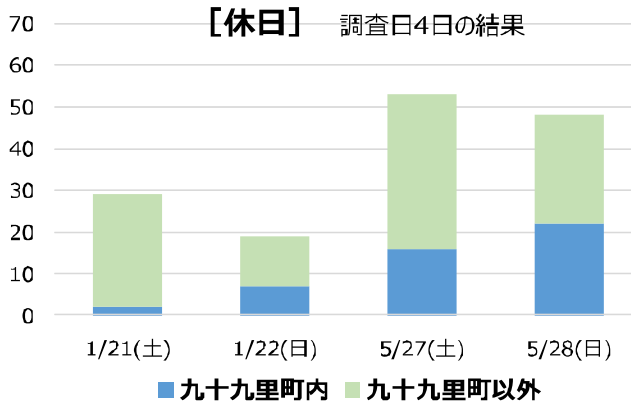
ちばフラワーバス（海岸線）乗降客数

【平日】 調査日4日の結果



ちばフラワーバス（海岸線）乗降客数

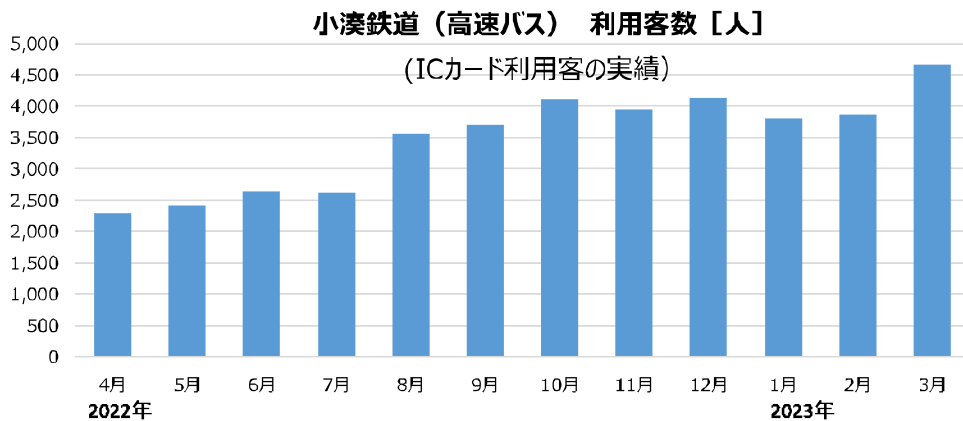
【休日】 調査日4日の結果



R5 年調査日の結果
(バス事業者資料より)

・小湊鐵道（高速バス：九十九里町経由）

- 本町を経由する小湊鐵道の高速バスの、年間の利用客数（ICカード）は約4万1千人です。そのうち約5千人がサンライズ九十九里からの乗車客です。同数の降車客があると想定した場合、全体の1/4（約1万人）がサンライズ九十九里の乗降客であると想定されます。



参考：小湊鐵道（高速バス：九十九里町経由） 2022年4月～2023年3月

- ・年間ICカード利用客数：約4万1千人
うち、サンライズ九十九里での乗車客：約5千人
(サンライズ九十九里での降車客は含まない)

(バス事業者資料より)

2-3. タクシー

(1) タクシー営業所

- 本町内にはタクシー営業所が 1 箇所立地しており、タクシーが、路線バス等を補完する役割を担っています。



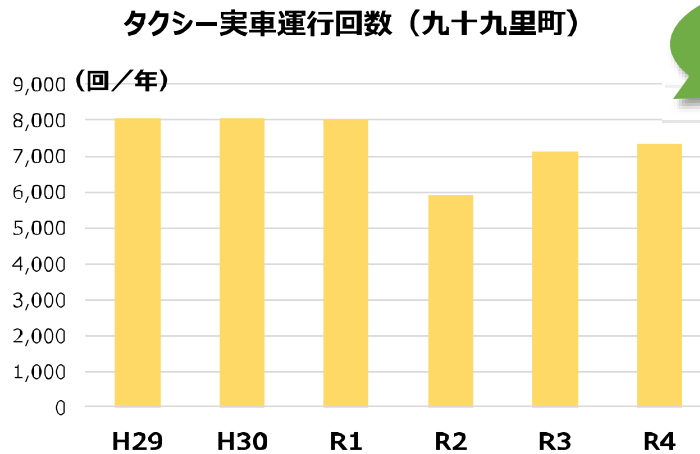
(有) 片貝タクシー
所在地：九十九里町片貝、車両台数 4 (普通車)

(タクシー協会資料より)

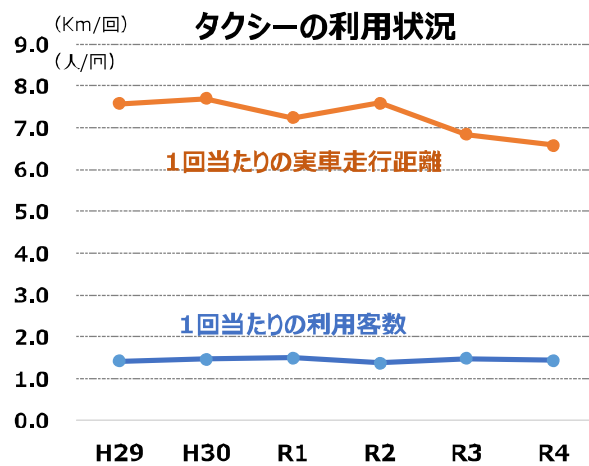
(2) タクシーの利用状況

・タクシーの利用状況

- タクシーの利用客数は横ばいの状況でしたが、コロナ禍で大きく落ち込みました。
- 実車走行 1 回当たりの利用客数は 1.5 人前後であり、1 人での利用が多いものと見受けられます。1 回当たり走行距離は、徐々に短くなる傾向にあります。



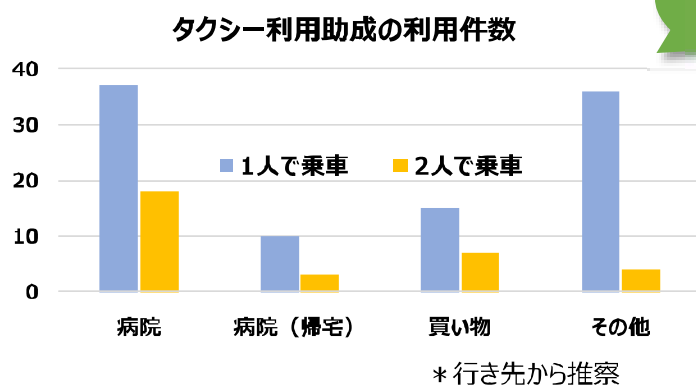
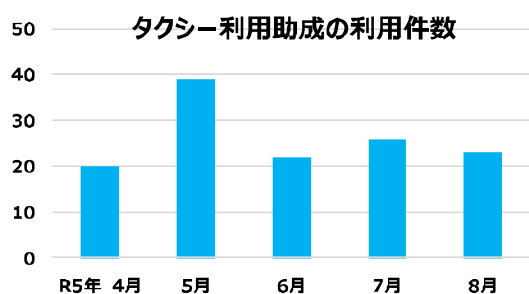
タクシーの利用客も、
コロナ禍で落ち込み



(タクシー事業者資料より)

・タクシー実証実験（タクシー利用助成）の状況

- 本町では、公共交通が存在しない地域の解消に向け、今後の検討材料とするため、「タクシー利用助成」の実証実験を行っています。（対象は、作田丘地区または真亀丘地区にお住まいの方で、75歳以上の方、及び65歳以上の方で運転免許証を自主返納した方）
- 利用時の行先をみると、病院への行き帰りでの利用が多いものと見受けられますが、買い物等での利用もあります。また、一人で乗車する人が多数となっています。



(R5 年度実績より)

